



大建発第 112 号
平成20年10月15日

国土交通省道路局長 殿

茨城県久慈郡大子町長 綿引 久男



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成20年9月19日付国道企第37号で依頼のあった標記の件については、別紙のとおり回答いたします。

今後の道路行政についての意見・提案

①道路行政全般についての改善すべき点、要望や提案など

茨城県久慈郡大子町

少子・高齢化社会を迎え、国全体が人口減少に向かう中、地域の更なる発展のためには交流人口の増大が必須である。地域に観光客などを迎え入れるためには、円滑に通行できる道路の整備が前提条件となる。また、安心・安全な住民生活のためにも、通学路の歩道など、今後も解決が必要な道路整備に関する課題は山積している。

特に地方部においては、都市部と比べ整備が遅れている地域も多く、例えば当町においても、幹線道路において、部分的に未改良の区間が存することで円滑な通行が妨げられたり大型車の通行が困難な状態となっている路線があり、早急な整備促進が求められている。

また、町にとって重要な道路でもその整備や管理が国からの補助による県事業で実施されている場合が多く、町としては国・県に要望を重ねるだけになってしまい、事業執行に機動性が欠けてしまう面がある。

道路特定財源の一般財源化にあたっては、地方の道路整備の財源確保をお願いしたいことは当然であるが、各地域がそれぞれの実情に合った道路整備を行えるよう、財源の大胆な地方への移譲や補助事業の運用における地方の裁量の向上も要望したい。

今後の道路行政についての意見・提案

②-1 地域の現状と抱える課題

○現状

本町は、昭和30年の合併により325.78km²の広大な町となり、町道の延長においても約600kmを有することとなりました。

そのような中、町では各集落と国、県道や公共施設を結び町民の生活基盤として欠くことのできない道路網の整備を重点課題として各種補助事業の導入や起債等による道路整備を優先して進めてきたこともあり、幹線における改良率は75.8%、と一定の成果を上げ各集落へは道路が網羅され住民の日常生活に大きく貢献しているところであります。

○課題

今後の課題としては、既に始まっている高齢化社会においても日常生活に欠かす事の出来ないこれらの道路施設を高齢者の運転にも安心・安全な状態で維持し供用することが求められると考えています。

また、通常の維持管理(除草、側溝土砂払い等)においても生活道路としての意識から自主的な参加によって行われてきましたが、集落によっては少子高齢化の影響でこのような慣習も困難になっており行政による直接対応が増大する傾向が既に現れております。

このようなことから、維持管理や補修にかかる経費が増えることが予測されることから、そのための財源をいかに確保するかが課題になると考えています。

今後の道路行政についての意見・提案

②ー2 地域の目指すべき将来像

茨城県久慈郡大子町

広大で豊かな自然環境に恵まれ東京から130Km圏内に位置し、「袋田の滝」を中心とする観光エリアと、その周辺の温泉を活用した観光施設の存するエリアなどと国道118号や国道461号などの広域幹線道路のネットワークを充実させ、都市部から交流人口を呼び込み地域を活性化させる。

今後の道路行政についての意見・提案

③道路施策の重点事項(代表事例, 期待する効果や評価等)

茨城県久慈郡大子町

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
高齢化社会に対応したバリアフリー化	町道2158号線の歩道段差解消	町道2158号線沿いには, 各種の病院が在ることから以前から高齢者の方の通交が多かったが, 出入り口部と歩道に段差があったことで歩きづらい状況であったが, 「まちづくり交付金事業」により歩道をフラットに改修したことで, 周辺の住民はもとより通院する方々からも安心して利用できるようになったと好評を得ている。	
地域活力の向上	国道461号大子バイパス	中心市街地における国道461号は, 幅員が狭く屈曲しているため一方通行になっており中心部への交通が抑制されていたが, この路線が整備されることで, これらが解消されるとともに, この事業に関連して町が実施しているまちづくり交付金事業での周辺整備と相まって中心市街地の活性化が期待される。	